
これが私の先輩です。

東名 水彩

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

これが私の先輩です。

【Nコード】

N0168S

【作者名】

東名 水彩

【あらすじ】

毒舌な後輩と、そんな後輩が大好きな先輩の物語。

これが私の習慣です（前書き）

文章の至らない所もあるかもしれませんが、どうぞ暖かい目で見て頂けると嬉しいです

これが私の習慣です

「氷野^{ひの}ちゃんっ」

真正面から私を呼ぶ声。顔を上げれば、アホ面のイケメンが笑顔でこちらに手を降っていた。

既に習慣と化してしまったこの状況に、盛大な溜め息が漏れる。現在進行形で廊下にいる生徒（主に女子）の視線が、一瞬にして集まった。

「おっはよー」

そんな事には気付かず堂々と挨拶をする彼は、無神経野郎以外の何者でもない。

黙って横を通り過ぎると、

「え、スルー？ 大好きな先輩をスルーしちゃうの？」

「朝からうるさいですよ騒音先輩」

「騒音先輩って何！？ それ俺の名前だと勘違いされたら困るからやめてえ」

「はいはい、朝からハイテンションなツッコミありがとございませす」

「いやぁ嬉しいな。まさか氷野ちゃんから感謝されるなんて」

「………なんというか、馬鹿ですな相変わらず」

私と先輩の会話が始まるのであった。

「先輩に馬鹿って言う事をちよつとは躊躇ためらおうよ」

「その必要性がありますか？ 先輩ごときに」

毒を吐かれた本人は、一瞬ボカンという顔になって、後にアハハと笑った。

幼い頃から、私は「毒舌」というレッテルを貼られてきた。気にしていないし、治そうとも思わない。

ただ、一言で表されると人間としてなんとなく寂しいものがある。でも、

「氷野ちゃんの毒舌なところも好きだな、俺は」

先輩は、そう言った。気まぐれか、もしくははからかっているだけ。心が読めるほど鋭い人ではない。でも、私を動揺させるには十分な言葉だった。

「……っ、つまり後輩からの毒々しい言葉で嬉しくなるM体質なんですね。先輩気持ち悪いです」

「え、なんか違う。ものすごい勘違いを」

「黙れ。M先輩ごときの分際で生意気ですよ」

「突っ込みどころが多すぎて困るよ氷野ちゃん！」

こんな会話をするのが、私の習慣。

これが私の習慣です（後書き）

とりあえず、順調な滑り出し……ですかね？
初投稿ドキドキです

これが私の友人です

「毎日お熱くて羨ましい〜っ」

「は？」

それは、先輩の絡みから逃げ出して教室に辿り着けた時。……鬱^{うつ}陶^{とう}しいのが一名、仁王立ちでニヤニヤしていた。

先輩の次は友人、と来たか。面倒臭い。

窓側という居眠りに最適な自分の席に座る。実を言うと、この席はあまり気に入っていない。

「よいこらせつと」

お婆さんか、とツツコミたくなるセリフで、友人が私の前の席に座った。つまり、そこが彼女の席なのだ。

隙あれば根掘り葉掘り色々な事を聞かれ（ほぼ先輩の）昼食は私の弁当を半分くらい平らげ（まだ一口も食べてなかったハンバーガーを略奪）放課後はガールズトークに花を咲かせ（友人だけ一人で盛り上がる）そこでまたもや先輩の話題になり（もっとデレなきや駄目とお説教）やっと終わったかと思えば今度は私の貴重な休日潰す予定を入れ（ゴロゴロして過ごすという計画が崩れた）最終的に解放されるのは外が薄暗くなってからという振り回されっぱなしの私の苦勞に誰か同情してほしい。

「んで、今日は朝から彼氏とどんな話したの？」

とりあえず、そのにやけ面は何かならないのか。

「なんか変な勘違いしてるみたいだから言っておくけど、先輩とは別に」

「うん、ツンデレね。んもー超可愛い！リアルツンデレきたこれ」

息がちよつと荒い気がするんだけど大丈夫かな。頭。

「人を萌えキャラみたいに扱わないで気持ち悪いよ奈津香」

「寿々が可愛すぎるのが悪い！」

「はあ」

寿々というのは私の下の名前。そして、説明無用の奈津香。

頭がちよつとアレなのが欠点の、私の友人。

これが私の友人です（後書き）

早起きしたのでちょっと執筆（　・　・　）
奈津香から、私と同類のにおいがします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0168s/>

これが私の先輩です。

2011年10月8日22時02分発行